

ハワイ島リゾート 2018



2018年5月

旅のチカラ研究所 植木圭二

友人夫妻と一緒にハワイ島に行ってきた。オアフ島に比べ格段と自然豊かで雄大な島、予想を上回る景色や自然を体験できた。そして欧米型の高級リゾート地でのコンドミニアム泊にも感動したので紹介したい。

第一章 Big Island

■ハワイ島は Big Island

日本でハワイと言えばホノルルのあるオアフ島が圧倒的に有名だ。しかしハワイには8つの島があり、その中でハワイ島が一番大きく、オアフ島の約7倍もある。地元では Big Island と呼ばれている。日本で例えると四国の約半分、東京都の約5倍という大きさになる。差し渡しは実に150km程もある。日本にあつたら島と呼ばないかもしれない。

ところがこの大きな島の人口は約19万人、日本の地方都市レベルでしかない。だから手付かずの自然が多く残っている。

この Big Island で私たちはリゾート旅を楽しむ。友人の TOU さん夫妻に誘われての来島だ。

■真っ直ぐな道

TOU さんが運転するレンタカーの助手席に私が座っている。左ハンドル車の助手席は自分が運転しているかのような錯覚を覚える。その似非運転手の私の視線はほとんど動くことがない。それは私の目の前の道がただひたすらに真っ直ぐだからだ。

視力 1.5 の私の両目で確認できる限り、道は遙か彼方まで真っ直ぐ続いている。この真っ直ぐさは日本の道のレベルではない、私の記憶では海外でもあまり覚えがない。

この様子を私が興奮気味に後部座席にいる妻たちに伝える。すると I think so と返ってくる。やはり、ここはハワイ島だ。



何故、道がこんなに真っ直ぐで、そしてそれが長く続くのか。

それは溶岩でできた何もない大平原に道を造ったからだろう。道を造るのに小高い山や谷、ましてや個人の所有地、集落など何もない。だから最短距離で2点間を結ぶという道の本来の形でできたのだろう。そこにはアメリカ人の合理性のようなものを感じる。

■火山の島

道は溶岩の上にできている。

そうこの島は火山島だ。島は5つの火山で構成されていて、互いに噴火期間が重なり合いながら、現在まで成長してきている。北から順番に噴火し北部の火山は既に死火山だが、南部の火山は今でも噴火している活火山がある。だから火山島とはいえ北の方は日本に山のように土を形成して大きな木々も多い。逆に南の方はゴツゴツした比較的新しい火山石で覆われていて草が隙間から生える程度で木々を寄せ付けない。

そして島は高い山でできている。北部にマウナケア(4205 m)と南部にマウナロア(4169 m)という富士山よりも高い山が2つある。ただし富士山のような綺麗な円錐形をしているのではなくマッターホルンのような急峻な岩壁をもっているのでもない。何となく広大な丘とでもいうのか、形だけでは高さをあまり感じない。

マウナケアの山頂は天候が安定し、空気が澄んでいることもあり、世界各国の研究機関が天文台を設置している。聞いた話では、そのために島全体のビルや信号機の明かりが星の観測のために制限されているという。この島では星の観測ツアーも多い。

さらに驚くべきことはハワイ島の近海は深度6000mくらいなので海底からの高さではマウナケアが1万メートルを超えている。エベレストを超えて地球で最も高い山になる。

私たちは現在も火口から噴煙を吐いているキラウエア火山に向かう。

キラウエアは私たちが滞在しているコナ地区から見て島のほぼ反対側で、道のりでは 200km 程度、2 時間半のドライブになる。このルートは南北の高い山の間を抜けるので、標高 2000m 以上の高地を走るハイウェイができています。200 号線と呼ばれており、まだ新しい。

下界は晴天なれども霧が出てきた。いや霧というよりも標高から考えれば雲で、雲の中を走り抜けるドライブも楽しいが、運転手にとってはそれどころではない。何しろ右側通行と左ハンドル、そして霧と雨、速度も時速 60 マイルということで時速約 100km だ。

大変な緊張感なれども振り返れば貴重な体験だ。

■火口探索

ボルケーノ国立公園に到着、作戦を練るためにまずはビジターセンターに立ち寄る。平日の昼前というのに多くの人々が来ているが、日本人はほとんどいない。ボランティアらしいガイドが数人いて、観光客に質問攻めにあっている。彼らは忙しさをむしろ喜んでいるように見える。観光案内図の前で得意満面で教えている、太った初老のおじさんガイドの話の聞いていると滞在時間が 1~2 時間ならこの 3ヶ所、3~4 時間ならばこの 6ヶ所というように観光客の側に立った説明は親切で分かり易い。

火口は二重構造になっており、今も噴煙を上げている内側の小さな火口は直径約 1km ということが危険で歩けない。その火口を包み込み大きな外輪山のようなクレータは 5km×3km だが歩いて一周できる。「歩き中毒」の私としては歩きたいのだが、残念ながら時間がない。

私たちは隣の展望台に行くために火口周辺の森の中を散策し始める。しかし何故かあまり人には会わない。ビジターセンターはあれだけ混んでいたのにおかしい。

森が切れて空が広がると至る所に 2~3m 幅の小さな割れ目から硫黄分を含む白いガスが噴出していて硫黄臭がする。この山は生きていると感じさせてくれる。



そんな割れ目地帯から火口が一望できる展望台に着く。

ここで人とあまり会わなかった理由が分かる。アメリカ人はみな車で移動して展望台の駐車場に行くからだ。滞在時間の1~2時間というのは各ポイント間を車で移動しての話らしい。

火口は噴煙を上げているだけではなく時々赤い炎も見える。炎は1~2秒の周期で真っ赤になって消え、また真っ赤になって消える。地球の息づかいと表現する人もいるが、息ではなく地球の血液を見ているかのようだ。地球という生命体の心臓の鼓動を感じ、まさしく地球が生きているということを実感する。

そうすると噴火は、血管が切れて血しぶきが上がる現象だ。そして血液が固まって大地を造っていく。ちょうど人間がケガをして血が出て固まって瘡蓋（かさぶた）ができるようなものだ。

その上を道路にして車が走り、やがて人間や動植物の営みが始まるという構図は面白い。



ビジターセンターの3つのお勧めの一つ **Thrston Lava Tube** という溶岩トンネルにも立ち寄る。トンネル内は人間が普通に立って歩ける大きさで、5分程で抜けられる。

これがどのようにしてできたのか良く分からない。ただ地球が生きているという実感は伝わってこない。ここは瘡蓋の中だからしょうがない。

この旅行記を書いている今（5月4日）、この火山が噴火したという衝撃的なニュースが飛び込んできた。火口から噴煙と噴石が立ち上り、燃えたぎる真っ赤な溶岩が流れ出ている。これはまさしく血液だ。火口だけでなく血しぶきは地面の割れ目から噴き出している。早く止血しないといけないと思わず叫んでしまう。

あと少し日程がズレたら私たちはこれに遭遇していた。遭遇していれば生命体としての地球を強烈に感じることもできたに違いない。

身の危険が無ければの話だが・・・。

■ 青い海とヤシの木

宿から近いハブナ・ビーチにやってくる。ここは公共のビーチらしく地元の人や観光客でにぎわっている。いや失礼、正確には地元の人と観光客との区別は私にはつかない。ただ日本人はほとんどいないということは確かだ。

日本の海水浴場と違うところは、海の青さ、そしてヤシの木だろう。このコントラストがいかにもハワイというイメージそのものである。

白い砂浜は広い、もちろんゴミなどは落ちていない。



海の家のようなものもない。そういえば自動販売機も見かけない。

世界各地を見てきた経験から日本は自動販売機の設置台数が極端に多く、乱立している。

その理由は日本の治安の良さだろう。販売機の中とはいえ商品やお金を野放しで置いているので治安の悪い国では壊されて盗まれる。さらに設置のためには電源が必要で日本は海岸や山奥どこにでも電源がある。電源とは、日本の風景には付き物になっているあの電信柱たちだ。

おっと、話がそれた。

いずれにしても自動販売機は見かけない。それはこのビーチだけではない。

■ 南十字星

ハワイ島の特徴の一つは夜空の星が綺麗に見えることだ。さらに北半球ではあるが、かなり南に位置しているので、もしやと思い私は南十字星を見るために外に出る。

南十字星は4つの星が十字架の形をしている星座で、南半球でないと見えないと思っている人が多いが、ハワイよりも北に位置する沖縄でも十字架の3つの星くらいまでは見ることが出来る。

一方で北極星はというと、ハワイ島の北緯が 19 度なので、真北の方向に 19 度の角度に見ることができる。昔の船乗りは北極星の高さで緯度を測っていた。その理屈からすれば赤道直下では水平線上に、そして南半球では絶対に北極星は見えない。

ところが南十字星は真南に位置する星座ではない。十字架の長い棒を下の方に 4 倍延長したポイントが真南に相当する。その真南のポイントを中心に星は回転するので、真南よりも高い位置に来た時ならば北半球でも南十字星を見ることが出来る。

私は腕時計の方位計を用いて南の方角を定め、南十字星を探す。すると 4 つの星のうち 3 つまでは確認できる。残念ながら一番下の星は見えない。右の星は最も暗いので、かすかに見える程度だが何とかわかる。

早速、部屋の中で食後のひと時を楽しんでいる皆に声を掛けて庭に連れ出し説明する。私の興奮に比べると 3 人の反応はそうでもないが、一応は感激しているらしい。自分の感動を他人に押し付けてはいけない。

ハワイ島で南十字星を見たという事実が残ればいい。

第二章 リゾートを満喫

■とてつもなく広い

今回は TOU さんの会員制の豪華なリゾート施設に泊めてもらっている。宿泊はコンドミニアムで 3 階建て鉄筋コンクリート構造をしている。

ここはヒルトン系列のリゾート施設で、とてつもなく広い。車で移動して施設の外に出るのに 10 分くらいかかるという規模だ。その中には私たちが泊まっているような 3 階建てのコンドミニアムが 100 棟以上、そしてホテル、レストラン、ショッピングモール、プール、プライベートビーチ、そしてゴルフ場もいくつもある。

ハワイ島のリゾート施設の規模はオアフ島などに比べてはるかに大きい。ましてや日本のリゾート地とは比較の対象ではない。

宿泊している部屋は独立したベッドルームが 2 室あり、各々にトイレやシャワーも完備しており 2 組の夫婦が快適に長期滞在できる。

共用部分として 30 畳くらいの大きな LDK (リビング・ダイニング・キッチン) がある。冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、食洗器の家電品の他に鍋や皿も用意されている。それらに使用する洗剤やペーパータオルの類までもそろっている。まさに至れり尽くせりというところだ。

こんな豪華な部屋で数日過ごすのは何と幸せなことだろう。

ベランダの外に出ると、まずは芝生が広がっており、ヤシの木が何本も立っている。そして溶岩が固まった瓦礫、その向こうにゴルフ場、さらに遠くにマウナケアらしき山が見える。4000m

級なので雲に隠れていることが多いが、時より見せてくれる雄姿は素晴らしい。

このベランダには外で食事ができるようにダイニングテーブルとイスのセットやリクライニング・チェアーも置いてある。



芝生には毎朝、様々な種類の小鳥がやって来て心地よい鳥のさえずりが聞こえる。残念ながら私は鳥の知識が乏しいので良く分からないが、日本の小鳥より一回り大きく、色もあでやかだ。

夜はリゾート施設の西側が海なので、高いヤシの木の合間に夕陽が沈む光景を見ることができる。いかにもハワイという景色は夕陽のスケールが桁違いに大きく感じる。



■ステーキにワイン

スーパーマーケットに買い出しに行く。店舗全体の面積もかなり大きい、何故か肉の売り場とワイン売り場がとても大きなスペースを占めている。今夜のメニューはステーキとワインにしろと店からの声が聞こえてくるかのようだ。

私たちはそれに素直に従い、滞在中のメニューをステーキ三昧にする。Tボーン・ステーキ、ビーフ 100%のハンバーグ・ステーキ、サーロイン・ステーキなど、価格は日本の半分以下で買える。合わせて赤ワインも買う。さすがにハワイ産はないのでカルフォルニア産だ。

早速料理に取り掛かる。独身の若い男女のパーティならば、下心も手伝って和気あいあいとキヤッキヤ言いながら共同で作業を進めるが、結婚して何十年か経過するとそれはさすがにない。それでも昔を想像すると、何故か楽しくなってくるから不思議だ。

妻たち二人は何やら相談しながら楽しそうに料理を作っている。男どもはワインの栓を抜き、皿を並べるなど単純作業を引き受ける。やはり男どもには料理という創造力を発揮する知的作業は縁遠い。



料理が完成して、4人でグラスを傾けハワイ島リゾートに乾杯だ。ステーキは厚く柔らかく、味付けは素材の良さを引き出している。舌鼓を打ちつつ楽しい夕食の宴が始まる。

■リゾートゴルフ

広いリゾート施設内にはたくさんのゴルフ場がある。ここに来てゴルフをやらない手はない。

早速 TOUさんと二人でカートに乗って繰り出す。1番ホール、2番ホールとプレーを楽しむと、なんと TOUさんが絶好調だ。何度も一緒にラウンドしたことがあるが、こんなナイスショット連発の彼を初めて見る。彼もそんな自分を信じられないと言いながらも口は実に滑らかだ。

リゾートは心技体を一新させてくれるのか。それにしても私の方は情けないショットの連続だ。

2番ホールが終わり、クラブハウスに戻ってきてしまった。目の前にいるちょっと格好いいスターターの従業員に次ぎのホールは何処かと聞くと、向こうだと言う。行って見ると10番ホールになっている。また戻り、あそこは10番なので3番目は何処かとしつこく聞くと、彼はしようがないなという顔をしながらカートを走らせて俺に付いて来いと手招きをする。

今までプレーをしてきた1番ホールの先まで再度戻り、さらにカートを走らせる。その先はコースではないだろうと思っていた大きな岩の向こう側にまでカートを走らせ、そしてここが2番ホールだと指差している。

私たちはようやく状況を理解した。2番ホールに行く道を間違えて9番を2番だと勘違いして戻ってきてしまったということだ。

日本でもやったことのない失態をここハワイ島でやってしまった。これもリゾートゴルフなのだ二人は笑うしかない。

ゴルフ場内に山羊がたくさん出没している。最初はバンカーで数匹を見かけた程度だったが、あるホールではフェアウエーに20匹くらいが出てきて悠々と歩いている。その一群を追うように私たちがボールを打っていくが、打ち込むわけにはいかないので待っていたり刻んだりで大変だ。

最後にはグリーンに一群が皆集まっている。待つこと5分。前のプレイヤーではなく山羊が退散するのを待つのは初体験だ。

彼らが去ったグリーン上には、山羊のフンだけが残っていた。

「フン、ここは私たちの土地よ」と言わんばかりだ。



■心地よい勧誘

コンドミニアムとは土地や建物を共同所有する分譲マンションのことだ。だからオーナーがいて物件を登記して所有する。

通常に分譲マンションは一室を一人のオーナーで所有するが、ここでは販売して管理する会社（ヒルトン・グランド・バケーションズ）が間に入って複数のオーナーにタイムシェアする仕組みにしている。そのため普通に所有するよりも安価になり、頻繁に行かないことからすればこの仕組みのメリットはある。

日本国内でも同様な仕組みで運営している施設があり、体験宿泊を旅行記にも記している。

今回の滞在で、この会社の説明会を受けると\$100のクーポンがもらえる特典がある。説明会というより勧誘だが、金に目がくらみ、いや社会勉強のために説明会を聞くことにした。

説明者は30代女性の日本人スタッフだ。英語も日本語もペラペラで、他に何か国語は日常会話ができるという国際的な女性だ。

名刺交換を行い自己紹介すると彼女は旅行に興味があったのか、しばらくは私と彼女とで世界各地の旅行の話で盛り上がる。私が47カ国をまわったと言うと、彼女は38カ国という。それも留学やボランティアなどで彼女の方が密度は遥かに濃い。

旅の話はさらに発展して、彼女のルーツの話になる。現在はDNA分析から自分のルーツを調べることができるという。それは「23 and Me」というアメリカ本国の検査会社が提供しているサービスで、創業者はGoogleの共同創業者の奥さんだ。

この会社に\$100を支払いDNA採取用に唾を送ると様々な細かな分析をしてくれる。彼女の場合はアジア圏の国以外にポルトガルやスペインのDNAも何パーセントあるとか、スマートフォンの画面を見せながら得意満面で話しをしてくる。それは人類の進化の話にも及んでいる。

もはや勧誘や説明会は関係ないという状況で、飲み屋で意気投合した客同士の会話のようだ。そんな盛り上がりによって説明時間は終わろうとしている。

それでも最後は数字が入った提案になる。彼女は私の顔色をうかがいながら、かなりお手頃なプランを示してきた。購入費用が約200万円、登記費用約50万円、そして年間管理費約10万円というものだ。これで毎年ハワイのリゾートが楽しめるという。

彼女は決して無理に勧めてこない。何て心地よい勧誘なのだろうか。充実感や安堵感が交錯する不思議な気分になる。こういうのが一流のセールスなのかも知れない。心地よい体験に加え、\$100の実益と社会勉強にもなった。

■リゾートとは

私の友人にリゾート研究家というのがいて、彼によると「リゾートとは貧富の格差が成せるものである」という。使う側と仕える側、そしてその格差があればある程リゾートがよりリゾートとして成立する。いかにも欧米の文化らしい。だから自炊して後片づけをして、布団を敷いたりするのは単なる田舎体験で決してリゾートとは言わない。

改めてこのコンドミニアムの生活を振り返ると、メイドがいる訳でもないのに貧富の差による優越感などというものはない。たぶん彼の定義では田舎体験だ。

でもこの豪華で爽快な気分、心が解放された感じは、私に言わせればこれがリゾートだ。確かにリゾート感いっぱいなのに、田舎体験とはおかしい。

何故だろうか。

青く澄んだハワイの空を見ていて、優越感の意味を取り違えていることに気が付く。貧富の差とか、自炊とかという言葉のイメージにとらわれて、本質を見ていない。

このハワイ島のコンドミニウムで優雅に空を見て過ごしていることが、既に貧富の「富」の最

たるものなのだ。直接的に比較する「貧」がないだけでのことだ。実は「貧」は自分たちの心の中、あるいは自分たちの日常生活かもしれない。

そう考えると自炊も「富」の極みで、普段食べることができない上等な肉や地元の食材を使って親しい友人と和気あいあいと料理して優雅に食べる。特別の時間を過ごすことが重要なのだ。



ついでに書くと JAL 便で来島したが、JAL の上客の TOU さん夫妻のお供をするだけで私たち夫婦も特別待遇を受けることができた。成田空港では JAL の上客しか使えない「サクララウンジ」の利用、機内への優先搭乗、CA までもが個別に挨拶にきてくれた。

「あなたは特別ですよ」感を満喫することができた。

■ハワイ島はいいよ

「ハワイ島はいいよ」という声をよく聞く。だから基本的に海外リピートをしない私もハワイ島なら面白そうなので TOU さんからの誘いにのせてもらった。

実際に訪れてハワイ島の良さを強く感じることができた。それは南の常夏の島という条件に加えて雄大で手付かずの自然。豪華で解放感いっぱいのリゾート施設も重要な要素になっている。

でも、それだけではない気がする。異国での買い物、コンドミニウム生活、ゴルフなどが楽しかった理由は、やはり気の置けない友人夫妻と一緒にだからだろう。

友人を自宅に招いたり招かれたりするのにも似ているが、一緒に異国で過ごすのはもっと密度が濃く、とても刺激的だ。

少し前に日本国内の観光地で自炊ができる宿に夫婦二人で行き、地元の食材を料理して食べたが感動も何もなかった。理由は私たちにとって日常生活と変わらないからだ。

今回は友人夫妻が日常から私たちを脱出させてくれた。

自然、リゾート、仲間、やはり「ハワイ島はいいよ」になる。

■旅の記録

旅の実施は2018年4月22日~27日、行程は以下のとおり。

- 1日目 夕刻に成田到着、直行便でハワイ島コナ空港へ。
- 2日目 現地時間は22日朝、コナ空港着。レンタカーを借りコナ北地区のワイコロアのキングス・ランドに入る。買い出しにワイコロア村のスーパーマーケットに行く。
- 3日目 レンタカーで北周りの島内半周に出発。ハブナ・ビーチ、ポロル溪谷、コハラ・マウンテン経由でヒロに入る。カメハメハ大王像を見物し、ヒロ市街地の車窓観光。200号線でキングス・ランドに向かいワイコロア村で買い出し。
- 4日目 午前はヒルトン・グランド・バケーションの説明。午後はキングス・ランドでゴルフ。妻たちはフラダンス教室。
- 5日目 200号線でヒロに向かい、ヒロ市街で給油。キラウエアで火口探索。11号線を右回りでキングス・ランドに向かい、コナ南地区にて買い物。
- 6日目 朝、コナ空港でレンタカー返却、直行便で成田へ。

費用は国内交通費や土産も全て含んで夫婦二人合わせて約292000円、一人あたり146000円は内容からすれば格段に安い。やはり宿泊費がゼロなのが効いているのか。TOUさんに感謝だ。

レストランを利用せず、全て自炊したことも貢献している。

明細は以下のとおり。

往復のフライト	115350円/人
自宅~成田往復	4444円/人
レンタカー	\$363 (9857円/人)
ガソリン代	\$60 (1672円/人)
国立公園入園料	\$25 (685円/人)
ビーチ駐車料	\$5 (138円/人)
食材と酒代	\$236 (6562円/人)
ゴルフ	\$63 (プレー\$25、カート\$25、靴\$38、説明会割引▲\$50、6930円/人)
土産	\$69 (チョコレート、コナコーヒー、絵本 3771円/人)